

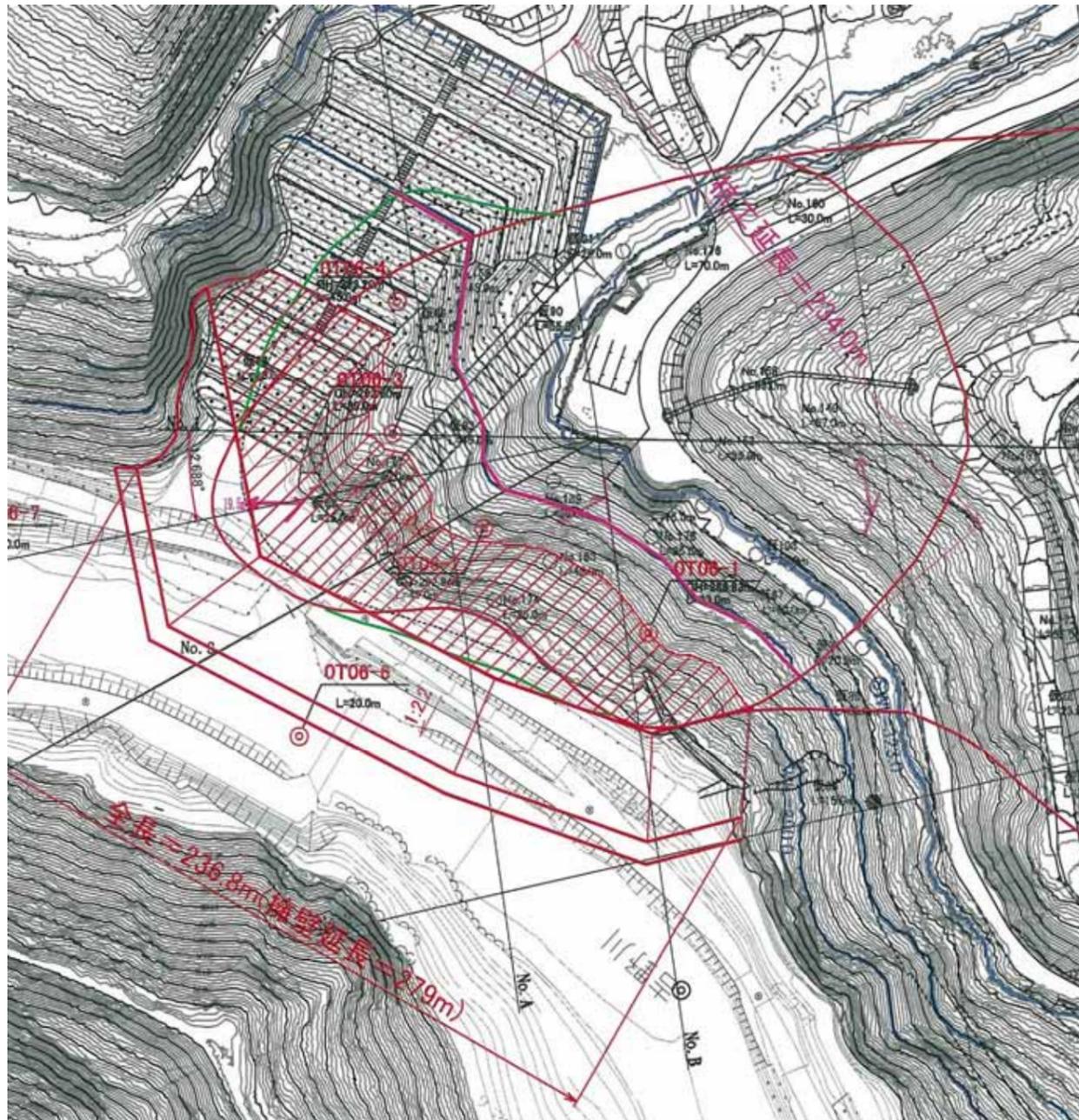
§2 大滝地区貯水池斜面对策の検討

事項	要点	備考
2-4-4【4次選定】 比較検討のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・1～3次選定を踏まえ、有力案について比較を行った。(主に抑制工タイプに着目し比較案を抽出) ・安全率の分担：抑制工により(1.05)、抑制工+抑止工により(1.15) 	

表 2-4-8 比較検討のまとめ

名称		A1案 「(前面水中コンクリート+土砂盛土)+鋼管杭」案	A2案 「(前面水中コンクリート+セメント改良土)+鋼管杭」案	B案 「(土砂盛土)+鋼管杭」案
対策工案	法尻処理タイプ	護岸擁壁案(Aタイプ)	護岸擁壁案(Aタイプ)	土砂盛土案(Bタイプ)
	抑制工 河川処理方法	半川締切 (護岸擁壁：水中施工)	半川締切 (護岸擁壁：水中施工)	転流工 (ドライ施工)
	盛土材料	土砂	セメント改良土	土砂
	抑止工	鋼管杭 900	鋼管杭 900	鋼管杭 900
対策工諸元 (Pu：必要抑止力、Fs：安全率)		抑制工：押え盛土天端 EL.290.0m /Fs=1.05 抑止工：鋼管杭工 Pu=5,300kN/m /Fs=1.15	抑制工：押え盛土天端 EL.285.0m /Fs=1.05 抑止工：鋼管杭工 Pu=5,300kN/m /Fs=1.15	抑制工：押え盛土天端 EL.290.0m /Fs=1.05 抑止工：鋼管杭工 Pu=5,300kN/m /Fs=1.15
概要図				
抑制工数量		水中コンクリート：V=183,250m3 土質材料：V=371,300m3 計 V=554,550m3	水中コンクリート：V=183,250m3 セメント改良土：V=347,400m3 計 V=530,650m3	押え盛土工：V=770,000m3 計 V=770,000m3
河川処理 (仮締め切り)		護岸擁壁を締め切り兼用とする。	護岸擁壁を締め切り兼用とする。	転流施設として、上流締切、管路、下流締切が必要となる。 [上流仮締切 EL.286m、波状管n=24本]
施工時の冠水リスク (洪水期対応)		1 / 1年まで対応可能	1 / 1年まで対応可能	1 / 1年まで対応可能 (ただし、転流施設規模が大きくなる)
沢水処理 (大津古谷)		天端水路設置案、上下流切廻し案、何れも可能である。	同左	上下流切廻し案とする。
環境・水質		水中不分離性コンクリートを使用するため、周辺環境に与える影響は小さいと考えられる。	水中不分離性コンクリートを使用するため、周辺環境に与える影響は小さいと考えられる。	特に問題なし

・A1 案〔前面水中コンクリート+土砂盛土〕+〔鋼管杭〕案

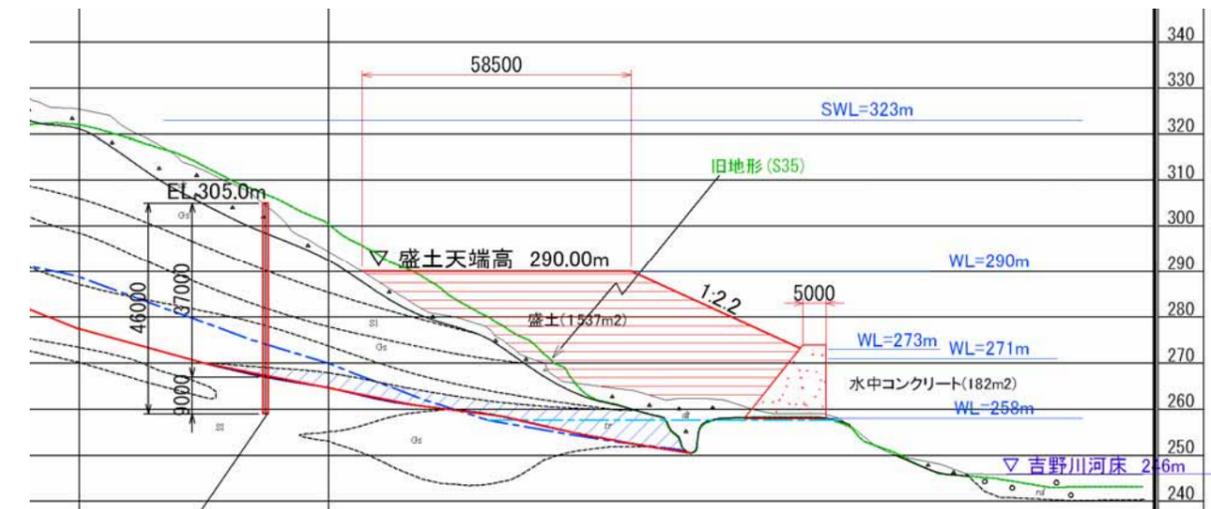


No.4 測線

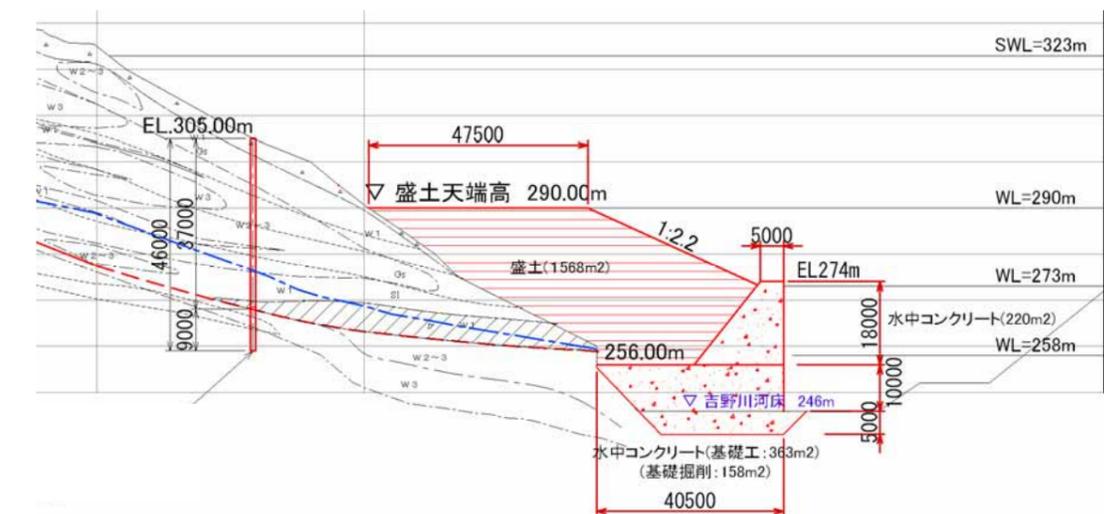
No.3 測線

	工種・工法	仕様・数量	安全率
主工法	押え盛土工	約 56 万 m ³	FS=1.05
補助工法	鋼管杭工	900@3.0m [t=55mm, L=46.0m]	FS=1.15

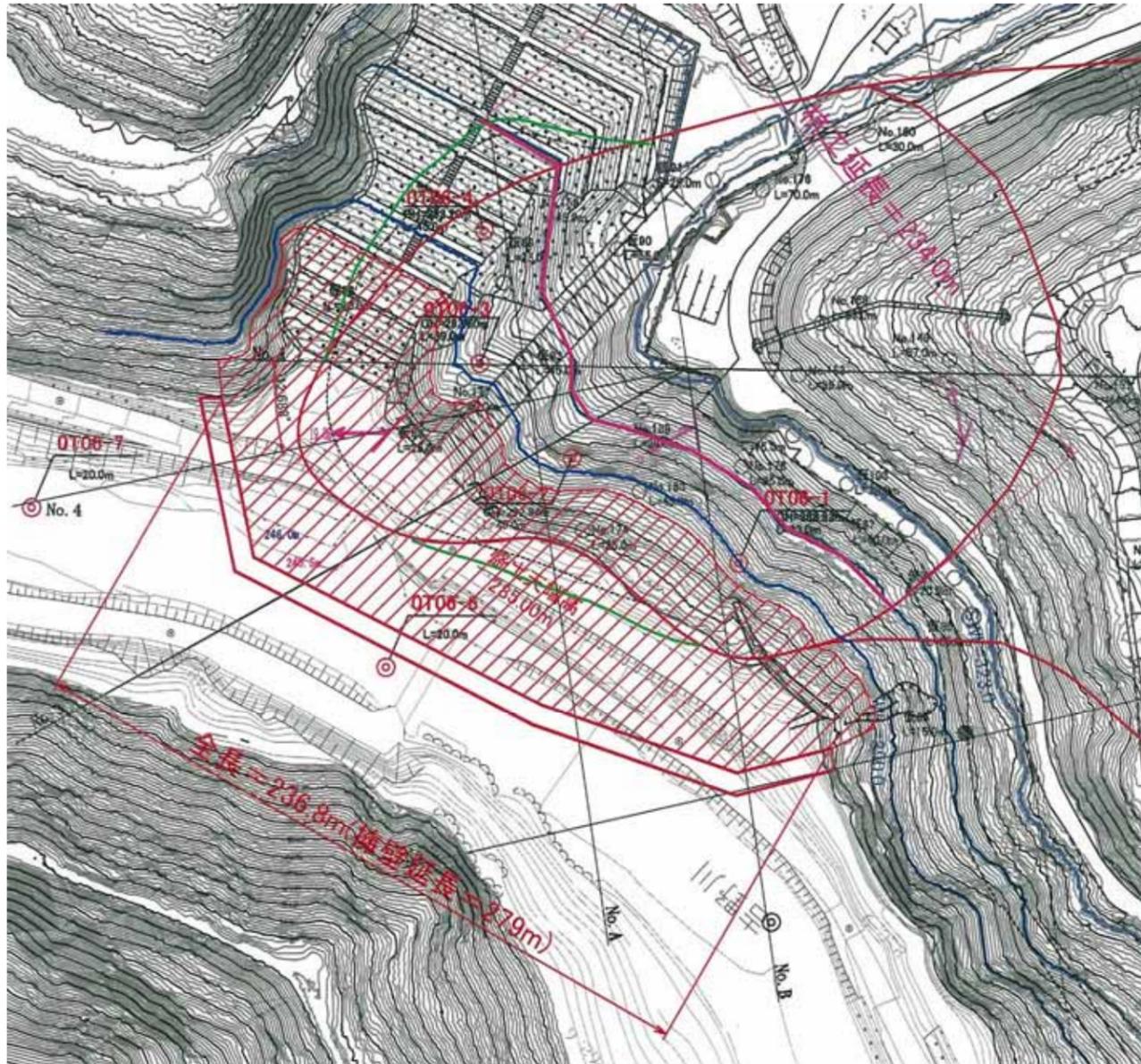
No.4 測線断面図



No.3 測線断面図

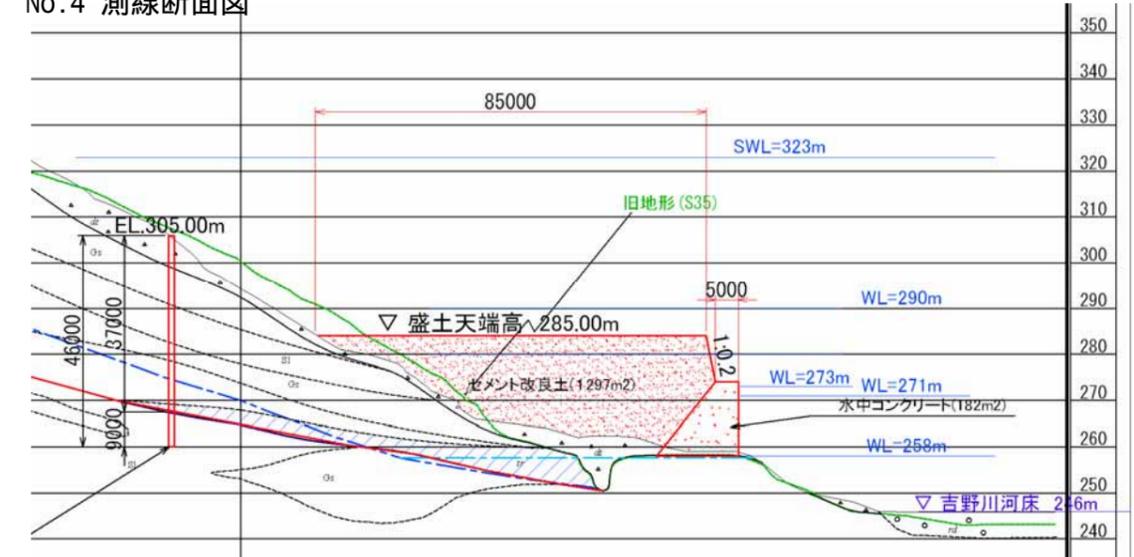


・ A2 案〔前面水中コンクリート+セメント改良土〕+〔鋼管杭〕案

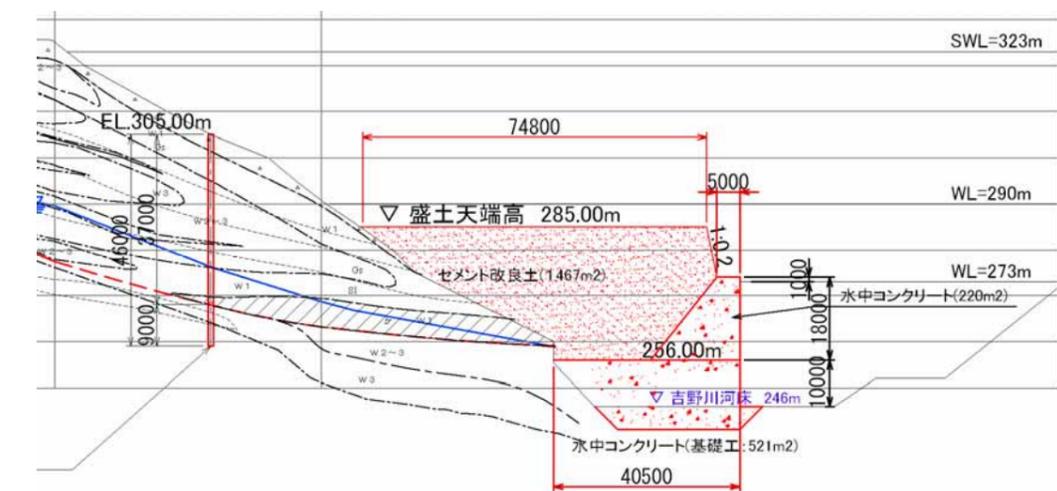


	工種・工法	仕様・数量	安全率
主工法	押え盛土工	約 53 万 m ³	FS=1.05
補助工法	鋼管杭工	900@3.0m [t=55mm, L=46.0m]	FS=1.15

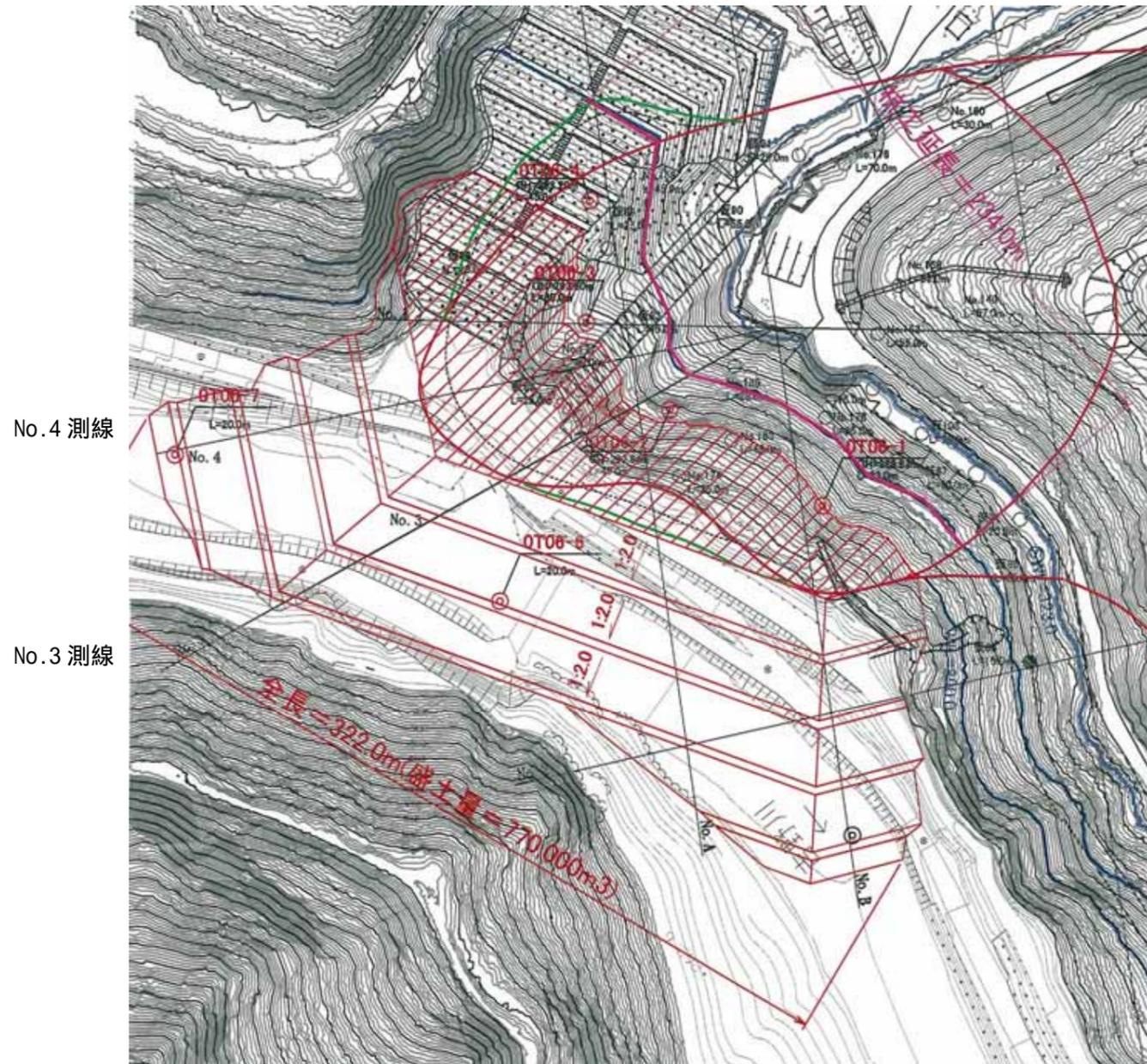
No. 4 測線断面図



No. 3 測線断面図

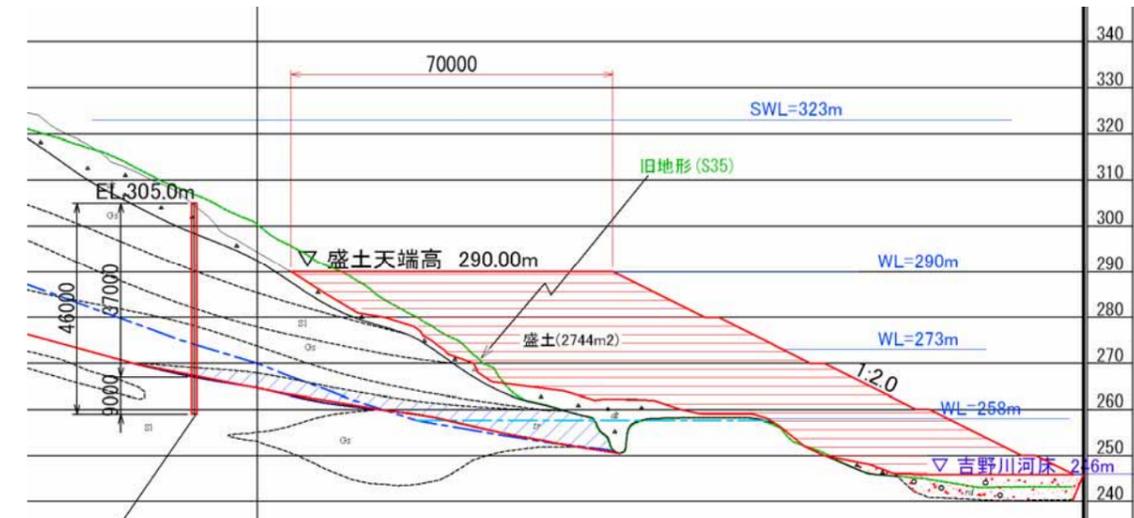


・B案〔土砂盛土〕+〔鋼管杭〕案



	工種・工法	仕様・数量	安全率
主工法	押え盛土工	約 77 万 m ³	FS=1.05
補助工法	鋼管杭工	900@3.0m [t=55mm, L=46.0m]	FS=1.15

No. 4 測線断面図



No. 3 測線断面図

